

会議録

会議の名称	第34回藤井寺市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年8月22日(木) 10時00分～12時05分
開催場所	藤井寺市役所 3階 会議室305
出席者	<p><委員> 輿石 由美子(会長)、小磯 久美子(副会長)、井関 祐子、 岡本 祐典、阪倉 隆仁、下村 富美枝、爲貞 修子、中辻 智子、 春名 絵美、山本 多津子</p> <p><事務局> こども未来部長、子育て支援課(こども政策担当)</p> <p><事業担当課> 子育て支援課(こども家庭センター)、こども施設課、こども育成課、 健康・医療連携課、生涯学習課</p>
欠席者	—
会議の議題	(1) 第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みと確保方策(案)について (2) 藤井寺市子ども・子育て支援事業計画 振り返りと今後の方向性について (3) その他
会議資料	○次第 ○(資料1)第三期子ども・子育て支援事業計画「量の見込み」と「確保方策」(案) ○(資料2)子ども・子育て支援事業計画 振り返りと今後の方向性
会議の成立	成立
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の必要事項	—

審 議 内 容 （ 発 言 者、 発 言 内 容、 審 議 経 過、 結 論 等 ）

1. 開会

(興石会長) 挨拶

2. 委員紹介等

(事務局)

- ・ 新任委員の紹介
- ・ 委員10名全員の出席により会議成立の旨報告
- ・ 傍聴者無しの旨報告

3. 配付資料

(事務局)

- ・ 配付資料の確認

4. 議題

(1)第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みと確保方策(案)について

(興石会長)

では、事務局より説明をお願いします。

(事務局/各事業担当課)

- ・ 資料1に沿って説明

(興石会長)

感想、ご意見等があれば発言いただきたいと思うがどうか。

(中辻委員)

⑥病児・病後児保育の病児保育(体調不良児対応型)について、6施設で実施しているとの説明であったが、それ以外の施設では、保育中に子どもが怪我をした場合、保護者の方が迎えに来るまでの間、どのように対応されているのか。

(こども施設課)

6施設と申し上げたのは、施設内に保健室が確保されており、看護師がいるという形で対応できている施設である。施設によって対応方法は様々であるが、その他の施設においても、保護者に引き渡すまでの間、対応可能な保育士等が対応している。

(中辻委員)

看護師は全ての保育所に常駐されていると思っていたが、看護師のいない保育所があるということか。

(こども施設課)

看護師が常駐していたとしても、保健室が確保できていなければ事業として実施しているとは言えず、そのようなケースもある。

(興石会長)

他に如何か。

(山本委員)

⑩子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の利用実績について、コロナ禍では利用が少なかったが、昨年度くらいから増えてきている状況か。ファミリー・サポートの支援をご存知ない方もまだまだいらっしゃると思うが、現状をお聞きしたい。

(こども育成課)

年間通して継続利用される方がいらっしゃれば、当然実績としては多くなり、継続利用がなく、単発的な利用が主となる場合は実績値としてはそれほど多くなならない。令和5年度は121件、今年度も15件、送迎又は預かりの単発利用、送迎・預かりセットでの利用もある。

(山本委員)

1日通して預かる必要があると思っている人も多い。送迎のみなら可能であるという方もいる。事業について市民の皆さんに広く伝わる情報発信が必要ではないか。

(爲貞委員)

コロナ禍で援助される方が減少したと伺った。計画上では、利用件数が増える見込みとなっているが、会員の登録状況は増加傾向か。

(こども育成課)

援助会員が66名、依頼会員が49名、両方会員が10名の合計125名の方に登録いただいている。

(事務局)

1点補足させていただくと、現行計画においては、送迎のみの利用は件数に含まないという考え方であったが、本事業については送迎のみの利用でも構わないことから、次期計画においては、送迎のみの利用も含めた件数としている。

(井関委員)

⑦放課後児童健全育成事業について、就労している保護者が増えているため、利用児童が増加傾向かと思いきや、前年度比で減少している年度もある。指導員の不足によるものか、放課後児童会以外の選択肢が増えたことによるものか、何か理由があるのか。

(生涯学習課)

少子化に伴い児童数が減少しているが、本事業の利用率としては概ね横ばいであると捉えている。選択肢が多様化していることも量の見込みが減少している要因の一つと考えられる。

(井関委員)

次に、⑨一時預かり事業について、幼稚園型以外の実施施設は現状4ヶ所であると思うが、今後強化される予定はあるのか。私自身、利用を考えたが利用には至らなかった。今後の見込みを伺いたい。

(こども育成課)

保育所等で実施する在園児以外を対象とした一時預かり事業について申し上げますと、現在実施している施設において、引き続き継続して実施していく予定である。

(事務局)

現状、利用実績に見合う十分な提供体制を確保できている。この状況が変化した場合には、別の手立てを考えなければならないと思っている。

(興石会長)

藤井寺市は他市に比べれば緩やかな児童数の減少だと聞いている。現在は十分な提供体制が確保されているが、利用が少ないのはもったいないので、皆さんのご協力で広めていくことも大事であるとする。他にご意見はないか。

(春名委員)

子どもの数が減少していく実感があつたが、会長の話を伺い、他市に比べれば緩やかな減少ということで少し安心した。また、確保方策の状況を拝見し、非常に有り難いと感じた。

そのうえで伺いたいのだが、知人の中にファミリー・サポートを利用したいという方がいた。登録も完了したが、やはりマッチングが上手くいかなかったようである。その理由を担当の方にお伺いしたところ、送迎や預かりをしていただく会員自体が少ないところが課題とのことであった。

何年かこの会議に参加させていただいているが、利用意向はあるがマッチングが上手くいかないという点がこの事業の課題であると市も認識されており、援助会員を増やす手立てが必要だと思う。

子どもの数とは対照的に、高齢者は多くいらっしゃるのでは、元気な高齢者の方に会員になっていただく手立てみたいなものがあれば良いのではないかと。高齢者のネットワークをうまく活用して会員数を増やすことはできないものだろうか。

(興石会長)

サポートされる方の資格等も気になるが、講習等は実施されているのか。

(事務局)

ファミサポ会員向けには毎年度講習会を実施している。仕事の都合等により毎回の受講は難しくとも、複数年にわたってでも受講していただき、情報・知識の更新をお願いしている。

(興石会長)

他にどうか。

(井関委員)

③養育支援訪問事業について、小さいお子さんがいらっしゃる家庭が対象であると推察するが、計画値を拝見すると、今後さらに力を入れていかれるのかなという風に見受けられるが、もう少し詳しくお聞きしたい。

(子育て支援課)

低年齢で基本的に所属がなく家庭養育されている世帯に専門職員が訪問し、お子さんの養育について指導・助言等の支援をさせていただく事業である。今年度から市こども家庭センターを設置し、母子保健と児童福祉の連携強化により、支援が必要な家庭を発見しやすくなり、より円滑な支援が可能になると考えている。

(井関委員)

家庭養育が前提であり、きょうだい児も含めて所属先がない方を対象としている事業か。

(子育て支援課)

家庭養育されている方だけではなく、例えば、上の子どもは所属があるが、産休・育休等で下の子を家庭養育しており、保護者の方の不安感が高まったため、定期的に支援訪問させていただくという事例もある。

(井関委員)

上の子は預けているが、育休中で下のお子さんを家庭で養育されている方は、単純に大変ということでもしんどくなることもあるし、収入が減ったことが不安の引き金になることもあるだろう。事業についてよく分かった。

(興石会長)

今後、国の手引きの改訂版も発出されると聞いている。他に色々とお考えがあるかも知れないが、本議題についてはこれで終了させていただくこととしたい。

それでは、各事業担当課はここで退席される。

(2)藤井寺市子ども・子育て支援事業計画 振り返りと今後の方向性について

(興石会長)

それでは、引き続き、議題(2)について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

・資料2に沿って説明

(興石会長)

只今説明のあった内容について、皆様からご意見ご質問等があればお願いします。

(阪倉委員)

話が少し逸れるかも知れないが、路上喫煙する人が凄く多い。喫煙する場所をもう少し考えてもらえれば、子育てしやすいまちにつながるのではないかと思っている。

(興石会長)

計画に載っている内容ではないが、子どもの安全・安心を守るという観点で大事なご意見をいただいた。他にどうか。

(井関委員)

地域で子どもを守るという機運があれば、公園でのポイ捨てや子どもの登下校時の路上喫煙も減るかも知れない。地域とのつながりは、子どもの育てやすさという観点では大変重要である。例えば、先ほど放課後の過ごし方についての説明があったが、学童を利用していても、高学年になると自分の好きなように時間を使いたいと思うようになる。親としては、安全性が担保されていなければ許可できず色々思案することもあり、課題の一つだと感じている。このような中、近所の方から子ども食堂に誘っていただいた。毎回すごく楽しみにしており、子どもの居場所になっている。

また、情報の入手先についての説明もあったが、保育所や幼稚園の送迎がなくなり、保護者同士や先生方と会う機会が減っている。PTA活動や地域のお祭りなど、面倒くさいと感じてでも参加しないと、地域との関わりを失ってしまい、普段から気軽に相談できる場所が少なくなってしまうのではないか。コミュニティ・スクールなど色々な取組をされていると思うが、多角的に色々考えてみてもらいたいし、親としても、選択肢をいくつも用意しておきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(興石会長)

他に如何か。

(山本委員)

今までであれば、母親メインで子育てする家庭が多かったと思うが、最近では、父親が保育所や幼稚園の送迎をしているのをよく見かける。母親の働き方にもよるだろうが、積極的かどうかは分からないが、送迎だけであったとしても、父親が子育てに参加されているのを目にするようになり、良い印象を受けている。

体験・交流活動の充実という取組で、ボランティア団体との交流を夏休みに企画されているようだが、参加者の状況はどうか。私もボランティア団体に所属しているが、参加者の応募が少なく、ボランティア体験の内容に魅力がないからなのか、と感ずることもある。

(井関委員)

参加させたいと思うが、保護者同伴が必須であれば、就労している保護者としては、イベントに合わせて休暇を取ることが難しく、非常に歯がゆい思いをしている。

土日開催であれば会場まで連れていくことは可能だが、平日開催となるとそれが難しく、これまでに何度も参加を断念したことがある。

(山本委員)

校区外になる場合もあるので、皆で集まって参加するというのも難しい。

(井関委員)

そのような体験活動にも多く参加させてあげたいと思っているが、現実的には残念な気持ちになることも多い。

(春名委員)

3点お尋ねしたい。まず、コミュニティ・スクールのモデル校の取組についてももう少し具体的に伺いたい。また、モデル校の取組を検証されると思うが、その後の展開についての記載がない意図についても伺いたい。

(事務局)

お尋ねのコミュニティ・スクールについては市教育委員会で現在進めている事業であり、その後の展開も含めて今後の検討事項であると考えている。担当課からは、今後どのように進んでいくか分からないため、本計画においてどのように記載するかについては調整させて欲しいとの要望を受けている。今後、計画案をお示しする際に、お尋ねの件も含めた状況を改めて説明させていただければと思うが如何か。

(春名委員)

承知した。次に、子どもと保護者の健康づくりの取組に明確な記載がないので若干話が逸れるかも分からないが、保護者が日中休まないといけないような時間帯に子どもの健診が設定されている。共働き世帯が増えている状況の中、例えば、夕方や土日での実施等、もう少し検討の余地があるかと思うが如何か。

(事務局)

お尋ねの件について、保護者の就業状況等が今までと変わっているという前提のもとで、それぞれの事業をどう改善していくのかについては、各事業担当課において、当然検討していかなければならないと感じている。いただいたご意見は担当課に伝えたくて、今後、その事業をどのように実施していくかということについて検討されるよう、事務局からも働き掛けたいと思う。

(春名委員)

最後、公園・道路の整備についてであるが、出産後、子どもをベビーカーに乗せて歩いていると、道路がガタガタしていることに気づいた。その後、よちよち歩きの子どもと歩いていると、狭い道路が多くすぐ脇を車両が通行している状況であることを認識した。保育園に子どもを預けていたときは、園の駐車場前に設置された自動販売機が死角になっており危ないと感じていた。このような視点を踏まえたうえで、公園や道路の整備について検討いただけると有難いと思う。

(岡本委員)

子育てに必要な情報の入手先について、広報紙や子育てマップなどの紙媒体をご覧になって情報を入手されている方も多いことが意外であった。それらの媒体にも当然トワイライトステイについて掲載されているとは思いますが、これまでの会議での報告をお聞きしていると、ほとんど利用実績がない。緊急時を想定された事業かとは思いますが、利用を遠慮されているのか、事業が周知できていないのか等については十分精査する必要があると感じており、それぞれの媒体を改訂していく際には、事業のPR方法を検討し、もっと子育てに優しい藤井寺市であることを前面に押し出していきたいというのが一点目の意見である。

次に、先程ボランティアについて意見交換があったが、私が所属する藤井寺市こども会育成連絡協議会では、小学生を対象とした様々なイベントを一年間通して開催している。先程の送迎に関する意見交換をお聞きし、我々の団体でも悩ましいと感じていた内容であった。

近年は、保護者の方が忙しいというのは周知の事実であるが、我々ボランティア団体も役員の減少や高齢化等により、一人ひとりのお子さんを迎えに行くことは不可能である。

各校区単位で集合し、代表者の安全管理のもと、まとめて会場まできていただくことをお願いしているところであるが、役員でさえ「何か起きたら困るので自分の子ども以外を送迎するのは抵抗がある。」といった声が上がっている。保護者の方に負担を掛けたくないという思いは山々であるが、では、ボランティア団体や市が送迎するのかと言えば、それはどう考えても無理である。

本会に所属していた子どもたちが中学生になるとジュニアリーダーに、高校生になると青少年リーダー協議会に入ってもらい、リーダーとして活動いただくというサイクルができていく。このリーダーたちが各校区に戻ってそれぞれの地域のイベントで活動してくれており、まさに子どもたちの成長によって支えられている状況である。

子どもたちに色々体験させてあげたいという思いはボランティア団体も保護者の皆さんと同じであるが、それを実現するためには、保護者の協力も必要である。

特に、青少年リーダー協議会、青少年指導員会、我々の市こ連という青少年3団体は、常に相互協力しながら活動している。活動に関わってくれた子どもたちが大きくなってリーダーになり、さらに子どもたちを引っ張ってくれる、という好循環で子どもたちの健全育成に繋がっている。このような状況が続くことで住みやすい藤井寺市になることを望んでおり、現役の保護者の皆さんにも協力いただき、そのような思いも広めていただければ有り難いと思うので、どうぞよろしく願います。

(興石会長)

岡本委員から貴重なご意見をいただいた。

(小磯副会長)

私もこども会の会長をしたことがあるが、退会を検討される方を何とか引き留めるということをした覚えがあり、身につまされた思いで岡本委員の話を聞かせていただいた。

市からの説明をお聞きし、非常に丁寧な見取りをしていただいていると感じた。また、委員の皆さんにも、資料の数字からは見えない大事な部分を意見として挙げていただいたと感じた。その中で一番必要だと感じたのは、これから分析していくということ。市で分析していただきつつ、この会議は「皆さんの協力で子どもを育てていこう」という機運をつくる会議でもあると思うので、皆さんのお知恵もいただきながら盛り上げていく必要があるのだろうと感じた。その辺りを岡本委員に上手く仰っていただいたと思う。

(下村委員)

皆さんがいかに地道な活動をされているかというのをお聞きできた。私は保育園の現場で、どのように対応すれば職員や子どもが一番幸せか等を考えながら取り組んできた。そのためには、保護者の方の意識改革が必要なことも身に染みて分かっている。今では、気になる子どもも多く、先生方も疲弊するような場面が多くあるが、そのような状況の中でも、先生方にはニコニコ笑いながら保護者に向き合ってもらい、その保護者の方には安心してお仕事に行っていただけしている。

保育園として、ただ単にお便りを出すだけではなく、どのように保護者に働きかけていくべきかを改めて考えさせられた。今後、また意見交換させていただければ幸いである。

また、中学生ともなれば、嫌々ながらにボランティア活動に参加していても、1日、2日と幼い子どもたちと関わっていきうちに、非常に前向きな姿勢へとその子自身の意識が変わっていったというような記憶もある。是非、学校も、教育委員会も協力して、子どもたちがたくさん経験・体験を積めるような環境を作っていただければ良いと感じているので、よろしく願いたい。

(3)その他

(興石会長)

事務局から何かあるか。

(事務局)

・次回の会議予定等について連絡

(興石会長)

委員の皆さんには活発なご意見をいただき感謝申し上げます。進行を事務局にお返しする。

5 閉会

(事務局)

色々と活発なご意見をいただき感謝申し上げます。

第三期事業計画の策定に向け、今年度も例年以上に多く会議を開催させていただくことになるが、ご協力いただくようよろしくお願いする。

以上で第34回藤井寺市子ども・子育て会議を閉会する。

以上